

特集！！ハルちゃんが行く！！

～作業現場取材(林業学校卒業生)～

平成29年4月から、高知県立林業学校を卒業した4名(2期生)が須崎林業事務所管内の林業事業体に就職して頑張っています。今回は梶原町森林組合に入った安岡さん取材しました。



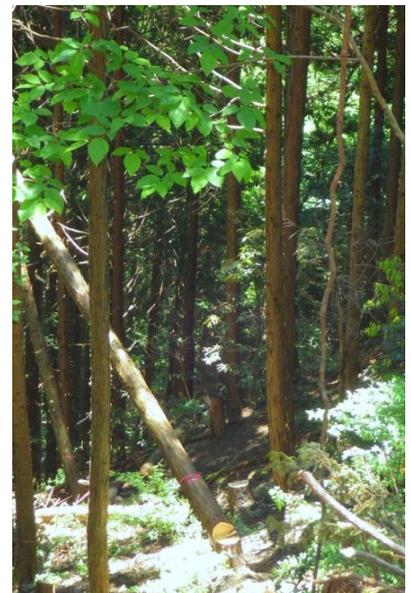
安岡さんは林業学校を卒業後、就職を機に梶原町にやってきました。林業学校の実習の中で、2週間ほどのインターンシップで梶原町森林組合で働いたことがきっかけで就職を決めたそうです。班長と先輩2名とともに4人の班で作業をしています。



安岡さん(左)と先輩の上田さん(右)

この日はヒノキの列状の搬出間伐の現場で、伐倒作業をしていました。列状間伐は木を列状に伐採していくので、定性間伐よりも効率的に作業を行うことができ、施業にかかる費用が抑えられます。また、現場で作業する人にとっても、選木作業が容易である、伐倒の際に掛り木が発生しにくく安全に作業できる、スイングヤードなどの機械を使って効率的に一ヶ所に集材できるためその後の造材作業もやりやすいといったメリットがあります。

安岡さんは予め目印をしておいた立木を次々と伐っていました。左側の写真はチェーンソーで伐倒しているところで、右側の写真は、立木が自重で倒れ始めたので離れた場所に退避して見守っているところです。掛り木になることなく、最後まできれいに倒れました。





伐倒作業をして林内に光が入り明るくなりました

後日改めて安岡さんを訪ねました。この日は台風5号による風倒木の処理の準備で、ワイヤの先端を輪のように加工して玉掛けワイヤ（アイスプライス）を作っていました。玉掛けワイヤ作りは手順が難しいうえ、ワイヤ刺しを使って手作業でワイヤをほどいて再び編み込むため、力があるので大変な作業ですが、現場で木材を引っ張るのに使うので、安全に作業をするために大事な準備です。安岡さんは先輩に指導してもらい、何度もやり直しながら手順を覚えていました。



安岡さんは先輩曰く、「教えたことをよく覚える。仕事は慎重派。」とのこと。これまで怪我もなく、暑い真夏の作業も無事乗り切ろうとしています。そしてすでに栲原の厳しい冬の寒さを覚悟しているそうです。季節や天候に左右される仕事ですが、体を大事にこれからも頑張ってくださいね。